

知見の囲炉裏端

技術経営における三つの軸



技術経営士の会 鈴木 浩



最近の技術経営の課題の一つであるスマートシティの構築にかかわっている。

先日、世界の中で、うまく取り組んでいる都市のひとつであるスペインのバルセロナの関係者から話を伺った。

バルセロナは小さな町で、世界的に知名度が低かった。その名を世界に知ってもらおうと、アメリカ大陸発見の500年を記念してオリンピックを誘致した（1992年）。そのおかげで、多くの海外観光客が訪れるようになり、町の知名度が上がり、にぎやかになった。一方で、住民にとって自分たちの町という感覚がなくなってしまったという。

そこで、ガウディのサグラダファミリアのような文化を中心としたスマートシティ構築が始まった。

まず、都市の名バルセロナを三つに分解した、すなわち、Bar-Cel-Onaである。

Bar は、バー、陸地で人が集まるところととらえる。人を中心とした都市設計が行われた。Cellは太陽であり、空を大事にする。どこからでも空が見えるまちづくりである。Onaは、海であり、地中海とのつながりを大事にする。この3点を生かすべくスマートシティ構築を行って成功したという。

こうした、三つの軸を中心としたランドデザインが成功の秘訣であった。

それに倣ったわけではないが、個人的にも、屋外の趣味の世界で三つの軸を大切にしている。

若いころからゴルフをたしなんでいた。これは陸上で行うプレイである。旅行先でもゴルフを計画に入れていたが物足りなくなり、スキューバダイビングを始めた。新型コロナ以前に60本を超えるダイビングを潜った。海中で行うプレイである。近年は、ハワイやグアムを訪ねる機会に、飛行機の操縦をすることになっている。体験飛行では免許は不要で、隣に指導員が乗って、操縦を指示してくれる。これは、空で行うプレイである。

それぞれ全く異なる体験が得られる。これで、陸海空の三つの軸がそろったと満足している。

翻って、技術経営を考えてみると、これまで、what（課題）が与えられると how（手法）を考えるのが技術経営の中心課題だと思っていた。しかし、近年のウィキッドな問題（環境問題やパンデミック問題）に取り組むには、その後ろにある why（なぜの問い）を考えることが必要であると気が付いた。

what や how を考えるときに常に why を考え、なぜそれが必要なのか、なぜその方法しかないのかと、三つの軸で取り組むことが必要ではないだろうか。

これからの技術経営の基本としてゆきたい。